

# 「愛と悲しみ！！」

～悲しみの旅人 何を探して？～

マタイ5：3～4

ブータンは世界一幸福な国と言われてきました。国民の幸福度を測る指標はGNPなどの経済的指標ではなく、自分たちの幸せレベルの指標をもっている国です。この国の少女が大学入試で、不合格になり、とても幸せには見れない状況のとき、あなたは幸せですかとの質問に、「はい、とても幸せです。私の祖母は、今朝も私のために庭の花をプレゼントしてくれました。私には父、母がいつも一緒にいてくれて、私がいて幸せだと言ってくれます。だから私も幸せです。」と言いました。幼い時から幸せレベルを探すよう育てられてきました。ですから、目の前に不幸が起こっても幸せを探すことができます。しかし、外部の文明が入ってきました。スマホなどの影響で、よその国と比較するようになっていきました。自分たちの持っているもので幸せと思っていたのに、それでは幸せと思えなくなってきました。この比較の目は恐ろしいものです。数十年前まではブータンはゴミが落ちていないとてもきれいな国でした。ところが、街にゴミがあふれるようになってきました。国民の95%が農業を営んでいて、自給自足で、物々交換をし、お金を稼ぐ必要はありませんでした。何か包むのは木の葉をつかっていました。葉っぱを使って、いらなくなれば、川にすて、海に流れ、腐って海のミネラルになるという自然のリサイクルの中で生きていました。そこへ、プラスチックという文明が入りました。プラスチックは自然の中では処理できないので、ゴミ処理能力のないブータンで、今までと同じようにプラスチックを捨ててしまい、ゴミが街にあふれるのです。一度楽を覚えてしまっているので、それを変えることができません。温暖化の影響で地球もおかしくなっています。地上から上がったり、一度にたくさん落ちる雷。サウジアラビアの大雨。ロシアの溶けていく永久凍土。人間が人間の生活を豊かにするために求めた結果です。私たちの心の問題から起きてきているのではないのでしょうか。

## マタイ5：3～4

心の貧しいものは幸いであれ。悲しむものは幸いであれ。と言っています。私たちは本来、心の貧しいもの、悲しむものは幸いだと感じるのでしょうか。私たちは幸せだと思っていることは幸せですが、幸せでないと思っていることは幸せではないのです。では、どうして、幸せだと言えるのでしょうか。私たちの感じ方は違うのでしょうか。イエス様は、山上の垂訓として、すべては愛に基づいている中で、心の貧しい者、悲しむ者は幸いだと言っています。この意味を知っていただきたいのです。♪人は誰でも幸せ探す旅人のようなもの♪と歌がありますが、聖書では、悲しみを探す旅人と言っています。いつから、悲しみがあつたのでしょうか。天地創造の時にはあつたのでしょうか。怒りはあつたのでしょうか。

## IIコリント7：8～15

悲しみはどこか来たのでしょうか。聖書的にはアダムとイブが罪を犯した時から神様は悲しみを与えた事がわかります。だから、イエス様は悲しむ者は幸いと言ったのです。悲しみの中で神様を探し求めることがこれが私たち人間の唯一の救いだからです。神様を探さることができるのは唯一悲しんでいるときです。ブータン国王は、文明が入り込んで、比較の目や、奪い合い、人を騙す文化が、ゴミだらけになって国を悲しんでいます。だから、農業や、それを使った産業を学んで、人を活かし、そこから幸せを感じてほしいと考えました。

あなたに入った悲しみの後あなたはその悲しみをどう処理しましたか。悲しみを正しく処理されないと怒りに向き、我慢になります。聖書は我慢しろとは言っていません。悲しみなさいと言っています。子供は悲しいことがあるとまず、慰めてくれる人をさがします。しかし、悲しんでいるときに恥ずかしい、我慢しなさいといわれて育つと、慰められることはありません。そして、慰めを求めなくなり、悲しくても悲しいと言えなくなります。

## ①神の御心に沿う悲しみに！！

神様は愛する表現として、人と向き合う方法を人に与えました。しかし、人は、神様との関係から離れてしまいました。人は善悪

を知る木の実を食べ、神様から離れてしまいました。手を広げて待っている神様の元へ帰る唯一の方法は悲しむことです。悲しむことが神様を探す方法です。その方法でしか神様を見つけることができません。”私が道であり、真理であり、いのちなのです。私を通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。”真理の悲しみを必要なのです。イエス様は、私は苦しみのあまり死ぬほどです。と言っています。イエス様はあなたの痛みを通り、背負ってくださいました。なぜなら、あなたを慰めるためです。だから十字架に架かりました。痛みの中を一緒に歩み、自分も痛み苦しみながら一緒にもとに戻していく。これはイエス様の恵です。神の御心に沿う悲しみに向きをかえる必要があります。もし、その悲しみが違うとすれば、悲しみとは絶望であり、死に至る病です。悲しみを正しく処理しないとダメです。

## ②本当の悲しみは 本当の愛に導く

ダビデはどうやって悲しんだでしょうか。”神よ、救いの神よ。私を救い出してください！”と嘆く。”私の敵はいつまで私の前でおごり高ぶるのでしょうか。”と訴える。”私の骨ほねは疲れ果て、私の枕は涙でぬれました”涙の悲しみ。ダビデにとって神様の前に出るというのは悲しみの表現でした。皆さんはどうやって悲しんでいますか。悲しみに蓋をしている人はいませんか。悲しみを隠すために鎧をかぶる。悲しかったと言わないで何と言ってしまうか。本当の愛に導くのが悲しみです。本当に悲しんでください。

## ③本当の悲しみは あなたの道から 神の道へ導く

神様はある時からあなたの心に入ってきたプラスチック（怒り）をあなたの心から取ってくれようとしています。ブータンでは日本人がゴミ拾いを始めています。しかし、ゴミ拾いの後、飲んだジュースの容器をまた、捨ててしまうのです。彼らはプラスチックが自然には帰らないとは思っていないのです。人間は便利にすればするほど自然に帰らなくなります。鉄は5年で土にかえりませんが、アルミは純度の低い鉄分の多いアルミは土にかえりやすいのですが、純度の高いより軽いアルミは20年経ってもなかなか土には帰りません。人間も楽な道を選び、傷に蓋をして膿を放っておけば置くほどもとに戻るのが難しくなっています。悲しみを放っておいてはいけません。今の子供たちを見て下さい。悲しみが怒りに替わりもとにもどらなくなっています。

## 詩篇119：26～3

ダビデは自分の道はこんな道ですと、ちゃんと神様に伝えました。すると神様はその道ではないと教えてくれました。そして、神様に偽りの道を取り除いてくださいと祈りました。私たちの道は悲しんで怒るという偽りの道です。神様はこの偽りの道からあなたを戻そうとしています。あなたを愛しているからです。あなたは正しく悲しめていますか。あなたの子供はちゃんと悲しんでいますか。賛美にあります。♪悲しんではいられない。恥は取り去られた。主の喜びととりかえよう♪本当に悲しんだから悲しんではいられないと言えるのです。悲しまず、怒りのままで主の喜びと取り換えることはできません。悲しみをほっておいて、怒りの矛先を社会や周りの人に向ける、敵を作ってしまう。あなたの人生で敵はいませんか。IIコリント7：6にはこの世の悲しみは死に至らせると書いています。私たちは神の御前に日々慰めを求めて集まります。慰められるために今、へりくだり宮に来なければいけません。

みなさん、ぜひ、悩みを置いて、神に心を向けてください。人間の価値観ではない神様の思いがあなたを守ってくださいます。神様が与えようとする神様の平安は世が与えるものとは違います。あなたの悲しみを持ったままにしないで、主に向けてください。

(要約者:澤口 明子)

(6月4日)